



図書館で広がる学びの世界 ～「自分で調べる」楽しさを知る～

近年、授業で学んだ内容をさらに深めるために、「学校図書館」を活用した探究学習が注目されています。単に本を読む場所としてだけでなく、知的好奇心を満たす「学びの拠点」として図書館を活用することが重要です。

そのためには、担任（授業者）と学校図書館整備員がタッグを組み、計画的に授業を設計することが欠かせません。本校では今年度、この連携を強化してきましたが、来年度からはさらに一步踏み込んだ取り組みを展開していく予定です。

先日、1年生の国語「どうぶつの赤ちゃん」の授業で、担任の先生と図書館整備員が連携した授業が行われました。教科書でライオンやカンガルーなどの赤ちゃんについて学んだ子どもたち。この日は図書館整備員による「コアラ」の読み聞かせからスタートしました。「コアラの赤ちゃんはどれくらいの大きさ？」「お母さんと似ているのかな？」子どもたちは読み聞かせをじっくり聞きながら、コアラの秘密を次々と発見していきました。

コアラのことがわかると、いよいよ自分たちが調べたい動物の調査開始です。1年担任と図書館整備員があらかじめ準備したたくさんの動物図鑑を前に、子どもたちの目は輝きます。「私はパンダを調べるよ！」「僕はキリンにする！」自分で選んだ本から必要な情報を抜き出す作業は、1年生にとっては決して簡単ではありません。しかし、先生達のアドバイスを受けながら、どの子も粘り強く本と向き合っていました。

一人ひとりが調べた「動物の赤ちゃんのひみつ」は、これからクラスで発表する予定です。どんな驚きの発見が飛び出すのか、今からとても楽しみです。



まずは、「コアラの赤ちゃん」の読み聞かせをじっくり聴きます。



「どの動物の赤ちゃんを調べようかな？」興味深々な子ども達。



じっくり読み、粘り強く調べます。素晴らしい！

寒さを吹き飛ばせ！ ～縦割り班大縄大会に向けて～

カレンダーも2月半ばを過ぎ、暦の上では春とはいえ、まだ冷たい風が吹く日が続いています。しかし、そんな寒さをもものともせず、業間休み（休み時間）の校庭には、子どもたちの元気な掛け声が響き渡っています。今週から「縦割り班大縄大会」に向けた練習がスタートしました！

今回の大会では、1年生から6年生までが6つの縦割り班に分かれて競い合います。普段は同じ学年の友達と過ごすことが多い子どもたちですが、縦割り班活動は少し特別。上級生が下級生の背中をやさしく押してタイミングを教えたり、下級生が一生懸命に跳ぶ姿をみんなで応援したりと、異学年交流ならではの新鮮で温かい光景が随所で見られます。



初めての大会に挑む1年生。最初は、目の前を勢いよく通る縄に戸惑い、足が止まってしまう場面もありました。しかし、お兄さん・お姉さんのアドバイスを受けながら練習を重ねるうちに、今ではリズムを合わせて上手に跳べるようになってきています。その表情は自信に満ちあふれています。



練習の成果を披露する本番は、2月19日（木）と20日（金）の2日間です。

「記録を1回でも伸ばしたい！」

「みんなで心を一つにしたい！」

そんな子どもたちの熱い挑戦を、ぜひ温かく見守ってください。当日、各チームがどれだけ記録を伸ばせるのか、今からとても楽しみです。

練習中、転んでしまった下級生にサッと駆け寄る高学年の姿がありました。縄跳びの技術だけでなく、こうした「心の成長」が見えるのも、行事の大切な醍醐味だと感じています。

